

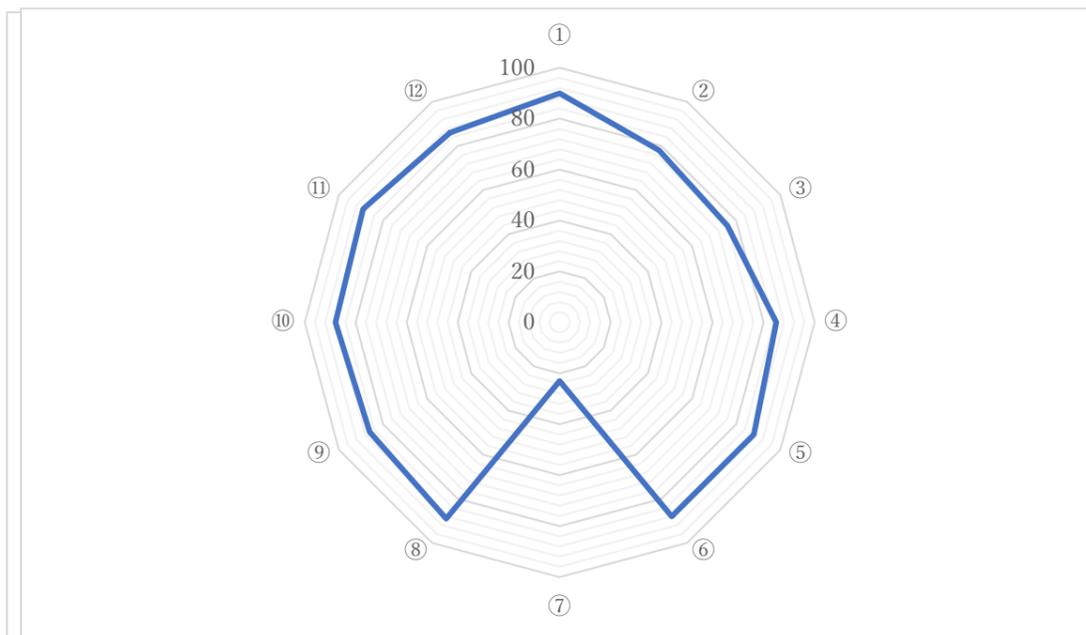
自己評価集計結果

<評価方法>

評価を4段階とし、項目を①~⑫に分け、それぞれの合計点をだす。

下記の集計表及びレーダーチャートは、回答した保育者の点数の平均点を表示している。

		R6 10月 回答数 15名	R5 2月 回答数 10名
評 価		平均点	平均点
I 保育の基本的 理念と実 践に係る観点	① 子どもの最善の利益の考慮（6項目）	89	93
	② 子どもの理解（9項目）	86	86
	③ 保育の環境（人・物・場）の構成（7項目）	75	76
	④ 保育士等の子どもへの関わり （援助・行動・言語・位置・タイミング・配慮等）（7項目）	84	87
	⑤ 育ちの見通しに基づく保育（8項目）	92	83
II 家庭及び地域社会との連携や 子育て支援に係る観点	⑥ 入所する子どもの家庭との連携と子育て支援（8項目）	89	86
	⑦ 地域の保護者等に対する子育て支援（4項目）	21	24
	⑧ 地域における連携・交流（4項目）	85	63
III 保育の実施運営・体制全 般に係る観点	⑨ 組織としての基盤の整備（8項目）	90	81
	⑩ 社会的責任の遂行（3項目）	90	81
	⑪ 健康及び安全の管理（12項目）	90	84
	⑫ 職員の資質向上（6項目）	86	84



まとめ

⑦「地域の保護者等に対する子育て支援」に関し、未就園児家庭への夏祭りの案内を昨年より近隣町内を増やしたが、参加がなかった。近隣家庭は高齢者が多く、子育て支援を必要とする家庭が少ない。③「保育の環境」に関し、室内の遊び環境が整わない状況がある。絵本棚が各クラスにない事や、年齢に沿った玩具が少ない事も影響している。遊びの提供の仕方や保育環境については、職員間の話し合いを持つ。また、予算との兼ね合いも関係する。次に、室内外の清潔については、個々に声掛けが必要な所が度々あり、職員数が少ない時の方がより掃除が行き届いていた。担当や係以外の場も保育環境の整備と捉え、一人ひとりの清潔の意識を高めていきたい。昨年と同じ職員で2年目を迎え、職員会議や日々の生活の中で、各クラスの困り感を相談したり、行事においても様々な意見や気づきが出るようになった。職員からも、コミュニケーションや連携の大切さは多く意見として挙げられた。その中で、一貫した個別対応が出来ると、より保育のまとまりも出る感じる。子ども・保護者理解の上で、保育者の資質の差が見られる。今後の課題として、全員で保育の質を高める必要がある。研修報告や園内研修では、それぞれの知識を共有できるので、今後も自分が学びたい分野を選択できる環境を作りたい。